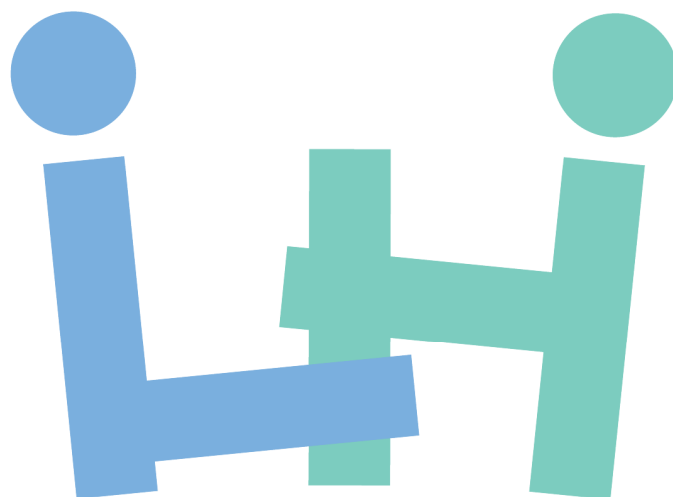


平成 23 年度

社会福祉法人 名古屋ライトハウス

東部・西部施設事業概要



光 和 寮
(障害者支援施設)

就労継続支援事業B型
就労移行支援事業<名古屋東ジョブトレーニングセンター>
生活介護事業
施設入所支援
居住介護等・移動支援事業
福祉ホーム
地域活動支援事業

ガイドネットあいさぽーと
かわな・やすだ
デイサービスセンター クリエイト川名

港ワークキャンパス
(多機能型事業所)
み な と

就労継続支援事業A型<ライトハウス名古屋金属工場>
就労継続支援事業B型<KAN食品開発センター>
福祉ホーム

明 和 寮
(障害者支援施設)

就労継続支援事業B型<ビーサポート>
就労移行支援事業<港ジョブトレーニングセンター>
生活介護事業<ぴちとまと>
施設入所支援
居住介護等・移動支援事業
福祉ホーム
指定(委託)相談支援事業<Kiraらぼーと>
地域活動支援事業
児童デイサービス
障害者就業・生活支援センター

みなとガイドネット
黎明荘・あかり
港区障害者地域生活支援センター
地域活動支援センター **あちえっとほーむ**
わくわくキッズ
海部障害者就業・生活支援センター

緑風

就労継続支援事業B型

戸田川グリーンヴィレッジ
(障害者支援施設)

生活介護事業
施設入所支援
短期入所事業

目 次

I 施設のあらまし	3
1. 施設の規模	
2. 定 員	
II 施設利用者概要 ～利用者の現状～	5
1. 光和寮	
2. ガイドネットあいさぼーと	
3. かわな	
4. やすだ	
5. デイサービスセンター クリエイト川名	
6. 明和寮	
7. みなとガイドネット	
8. 黎明荘	
9. あかり	
10. 港区障害者地域生活支援センター	
11. 地域活動支援センター あちえっとほーむ	
12. わくわくキッズ	
13. 海部障害者就業・生活支援センター	
14. 港ワークキャンパス	
15. みなと	
16. 緑風	
17. 戸田川グリーンヴィレッジ	
III 就労活動の概要	15
1. 光和寮	
(1) 就労時間 (2) 年間売り上げの推移 (3) 平均工賃の推移	
2. 明和寮	
(1) 就労時間 (2) 年間売り上げの推移 (3) 平均工賃の推移	
3. 港ワークキャンパス	
(1) 就労時間 (2) 年間売り上げの推移 (3) 平均工賃の推移	
4. 緑風	
(1) 就労時間 (2) 年間売り上げの推移 (3) 平均工賃の推移	
IV 各事業所の状況	18
1. 光和寮	
2. ガイドネットあいさぼーと	
3. かわな	
4. やすだ	
5. デイサービスセンター クリエイト川名	
6. 明和寮	
7. みなとガイドネット	

8. 黎明荘・あかり
9. 港区障害者地域生活支援センター
10. 地域活動支援センター あちえっとほーむ
11. わくわくキッズ
12. 海部障害者就業・生活支援センター
13. 港ワークキャンパス
14. みなと
15. 緑風
16. 戸田川グリーンヴィレッジ

V その他の活動について..... 42

1. 東部施設
2. 西部施設
3. 緑風
4. 戸田川グリーンヴィレッジ

I 施設のあらまし

1. 施設の規模

東部施設

	敷地面積	建 物 面 積		
		管理・生活部門	作業部門	合 計
光 和 寮	1,802.35 m ²	1,358.15 m ²	1,456.99 m ²	2,815.14 m ²
クリエイト川名	光和寮敷地内	79.11 m ²	—	79.11 m ²
か わ な	316.50 m ²	623.78 m ²	—	623.78 m ²
や す だ	光和寮敷地内	307.44 m ²	—	307.44 m ²
あいさぽーと	光和寮敷地内	光和寮事務所内	—	—

西部施設

		敷地面積	建 物 面 積		
			管理・生活部門	作業部門	合 計
港ワーク キャンパス	入居棟・作業棟	2,941 m ² (市有地)	1,121.41 m ²	3,665.94 m ²	4,787.35 m ²
	第二工場	330.57 m ²	—	280.24 m ²	280.24 m ²
	寛政町倉庫	556.59 m ²	—	318.96 m ²	318.96 m ²
み な と		港ワーク敷地内	和室 14.58 m ² 洋室 16.56 m ²	—	—
明 和 寮		7,068 m ² (市有地)	2,867.59 m ²	1,279.60 m ²	4,147.19 m ²
みなとガイドネット		明和寮敷地内	43.92 m ²	—	—
黎 明 荘		明和寮敷地内	291.60 m ²	—	—
あ か り		明和寮敷地内	和室 20.00 m ² 洋室 20.00 m ²	—	—
港区障害者地域生活支援センター		賃貸物件	55.43 m ²	—	55.43 m ²
あちえっとほーむ		賃貸物件	113.11 m ²	—	113.11 m ²
わくわくキッズ		(2事業同一敷地)	81.86 m ²	—	81.86 m ²
海部障害者就業・生活支援センター		賃貸物件	55.5 m ²	—	55.5 m ²

	敷地面積	建 物 面 積		
		管理・生活部門	作業部門	合 計
緑 風	3,012.87 m ²	654.18 m ²	291.65 m ²	945.83 m ²

	敷地面積 (市有地)	建 物 面 積		
		管理・サービス部門	居 室	合 計
戸 田 川	4,281.54 m ²	1,884.28 m ²	605.96 m ²	2,490.24 m ²

2. 利用者の定員

光和寮

- 就労継続支援事業B型 80名
- 就労移行支援事業<名古屋東ジョブトレーニングセンター> 18名
- 生活介護事業 20名
- 施設入所支援 (17室) 32名

かわな

- 福祉ホーム (内世帯用居室1戸) 15名

やすだ

- 福祉ホーム 11名

デイサービスセンター クリエイト川名

- 地域活動支援事業 19名

明和寮

- 就労継続支援事業B型<ビーサポート> 100名
- 就労移行支援事業<港ジョブトレーニングセンター> 15名
- 生活介護事業<ぶちとまと> 20名
- 施設入所支援 (15室) 30名

黎明荘

- 福祉ホーム (5戸) 10名

あかり

- 福祉ホーム (28戸) 31名

地域活動支援センター あちえっとほーむ

- 地域活動支援事業 19名

わくわくキッズ

- 児童デイサービス 10名

港ワークキャンパス

- 就労継続支援事業A型<ライトハウス名古屋金属工場> 60名
- 就労継続支援事業B型<KAN食品開発センター> 20名

みなと

- 福祉ホーム (20戸) 20名

緑風

- 就労継続支援事業B型 20名

戸田川グリーンヴィレッジ

- 生活介護事業 40名
- 施設入所支援 40名
- 短期入所事業 8名

Ⅱ 施設利用者概要

～利用者の現状～

※単位はすべて（人）

1. 光和寮

○就労継続支援事業B型

①入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	54	4	3	55	80
女	22	1	0	23	
計	76	5	3	78	

②障害別状況（平成24年3月31日現在）

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	合計
35	33	1	0	7	2	78

③年齢構成（平成24年3月31日現在）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
1	12	12	15	30	8	78	45.6歳

○就労移行支援事業

①入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	14	10	13	11	18
女	7	6	5	8	
計	21	16	18	19	

②障害別状況（平成24年3月31日現在）

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	合計
1	1	0	0	16	2	19

③年齢構成（平成24年3月31日現在）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
8	7	2	2	0	0	19	23.8歳

○生活介護事業

①障害別状況（平成24年3月31日現在）

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	合計
14	14	2	2	10	2	31 (13)

（ ）内は重複障害再掲

②障害程度区分（平成 24 年 3 月 31 日現在）

未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合 計
—	—	5	8	5	4	9	31

○施設入所支援

①入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定 員
男	12	0	0	12	32
女	9	1	0	10	
計	21	1	0	22	

②障害別状況（平成 24 年 3 月 31 日現在）

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	合 計
13	8	1	0	0	0	22

③年齢構成（平成 24 年 3 月 31 日現在）

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上	計	平均年齢
0	3	2	5	11	1	22	47.0 歳

2. ガイドネットあいさぽーと

○指定障害者居宅介護・移動支援事業

①障害別状況（平成 24 年 3 月 31 日現在）

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	合 計
55	2	1	1	4	1	64

3. かわな

○福祉ホーム

①入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定 員
男	8	3	1	10	15
女	3	2	1	4	
計	11	5	2	14	

4. やすだ

○福祉ホーム

①入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	7	0	0	7	11
女	2	0	0	2	
計	9	0	0	9	

5. デイサービスセンタークリエイト川名

○地域活動支援事業

①障害別状況（平成24年3月31日現在）

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	合計
39	3		1	2		45

6. 明和寮

○就労継続支援事業B型〈ビーサポート〉

①入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	86	7	11	82	100
女	20	0	0	20	
計	106	7	11	102	

②障害別状況（平成24年3月31日現在）

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	合計
17	67	1	0	21	13	102 (17)

() 内は重複障害再掲

③年齢構成（平成24年3月31日現在）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
0	5	14	26	31	28	102	50.9歳

○就労移行支援事業〈港ジョブトレーニングセンター〉

①入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	14	18	14	18	15
女	3	3	4	2	
計	17	21	18	20	

②障害別状況（平成 24 年 3 月 31 日現在）

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	合 計
1	3	2	0	8	7	20（1）

（ ）内は重複障害再掲

③年齢構成（平成 24 年 3 月 31 日現在）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
3	4	6	5	2	0	20	33.3 歳

○生活介護事業〈ぷちとまと〉

①障害別状況（平成 24 年 3 月 31 日現在）

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	合 計
2	17	0	0	10	3	23（9）

（ ）内は重複障害再掲

②障害程度区分（平成 24 年 3 月 31 日現在）

未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合 計
0	0	0	4	5	3	11	23

③年齢構成（平成 24 年 3 月 31 日現在）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
1	9	6	1	2	4	23	36.6 歳

○施設入所支援

①入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定 員
男	16	0	16	0	30
女	3	0	3	0	
計	19	0	19	0	

②障害別状況（平成 24 年 3 月 31 日現在）

視覚障害	肢体障害	内部障害	聴覚障害	知的障害	精神障害	合 計
4	10	0	0	3	1	14（4）

（ ）内は重複障害再掲

③年齢構成（平成 24 年 3 月 31 日現在）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
0	0	1	3	6	4	14	53.0 歳

7. みなとガイドネット

○指定障害者居宅介護・移動支援事業

①障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合計
障害種別	19	29	1	2	1	52
重複障害	5	3	1	1	0	10
合計	24	32	2	3	0	61

②障害別状況（移動支援事業は含まれない）

未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
5	3	13	17	8	8	7	61

③年齢構成（平成24年3月31日現在）

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
2	1	2	13	14	29	61	57.6歳

8. 黎明荘

○福祉ホーム

①入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	3	1	0	4	10
女	2	0	0	2	
計	5	1	0	6	

②障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合計
障害種別	1	5	0	0	0	6
重複障害	0	0	0	0	0	—
合計	1	5	0	0	0	6

③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
0	0	1	1	2	2	6	54.8歳

9. あかり

○福祉ホーム

①入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	9	13	4	18	31
女	6	1	0	7	
計	15	14	4	25	

②障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合計
障害種別	5	20	0	0	0	25
重複障害	0	0	0	4	1	5
合計	0	20	0	4	1	25

③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
0	0	2	5	9	9	25	53.3歳

10. 港区障害者地域生活支援センター

○指定（委託）相談支援事業＜K i r aらぼーと＞

①障害種別状況

	相談者数	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他
障害者	254	128	7	112	22	2	4	6
障害児	43	10	7	26	4	2	0	0
合計	297	138	14	138	26	4	4	6

11. 地域活動支援センター あちえっとほーむ

○地域活動支援事業

①障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合計
障害種別	6	43	2	15	4	70
重複障害	4	7	3	5	3	22
合計	10	50	5	20	7	92

②年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
0	3	19	25	14	31	92	52.0歳

12. わくわくキッズ

○児童デイサービス

①障害種別状況

肢体+知的障害	肢体	知的障害	合計
14	2	18	34

13. 海部障害者就業・生活支援センター

支援対象障害者に対する相談・支援件数（内容別）

（件）

	身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計
就職に向けた相談・支援	56	42	117	13	228
職場定着に向けた相談・支援	2	38	5	16	61
日常生活、社会生活に関する 相談・支援	7	8	20	5	40
就業と生活の両方にわたる相 談・支援	5	33	40	1	79
合計	70	121	182	35	408

※「その他」内訳（発達障害：23、難病：1、高次脳機能障害：8、その他：3）

14. 港ワークキャンパス

○就労継続支援事業A型<ライトハウス名古屋金属工場>

①入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	61	7	4	62	60
女	2	2	0	3	
計	63	9	4	65	

②障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合計
障害種別	6	32	3	20	4	65
重複障害	0	0	0	1	0	—
合計	6	32	3	21	4	—

③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
3	6	11	17	17	8	65

○就労継続支援事業B型<KAN食品開発センター>

①入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	12	1	4	8	20
女	10	3	0	12	
計	22	4	4	20	

②障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合計
障害種別	4	5	1	8	2	20
重複障害	0	1	0	0	0	—
合計	4	6	1	8	2	—

③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
3	2	4	4	3	4	20

15. みなと

○福祉ホーム

①入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	16	3	0	18	20
女	0	0	0	0	
計	16	3	0	18	

②障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合計
障害種別	4	13	1	0	0	18
重複障害	0	0	0	1	0	—
合計	4	13	1	1	0	—

③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
1	1	2	5	4	5	18

16. 緑風

○就労継続支援事業B型

①入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	7	6	0	13	20
女	1	2	0	3	
計	8	8	0	16	

②障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合計
障害種別	0	10	0	5	1	16
重複障害	1	2	0	1	0	—
合計	1	12	0	6	1	—

③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
0	4	2	7	3	0	16	39.2歳

17. 戸田川グリーンヴィレッジ

○施設入所支援・生活介護事業・短期入所事業

①入退所状況

性別	前期末在籍者	本年度入所者	本年度退所者	期末在籍者	定員
男	0	25	1 (死亡)	24	40
女	0	18	2 (死亡1・ 家庭復帰1)	16	
計	0	43	3	40	

②障害別状況 (平成24年3月31日現在)

()内は重複障害再掲

脳性まひ	脳障害 後遺症	頸髄損傷	二分脊椎	化膿性 脊髄炎	視覚障害	リウマチ
21 (15)	4 (1)	3	1 (1)	1 (1)	2 (2)	1
筋ジストロ フィー	ハンチン トン病	パーキンソ ン症候群	多発性 硬化症	脊髄小脳 変性症		合計
2	1	2 (2)	1	1		40 (22)

*最も顕著な障害で分類

③年齢構成 (平成24年3月31日現在)

	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	平均年齢
男	0	3	10	8	3	24	49.14歳
女	2	1	3	8	2	16	50.07歳
計	2	4	13	16	5	40	49.52歳

④障害程度区分別状況（平成 24 年 3 月 31 日現在）

区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合 計
0	0	1	2	8	29	40

Ⅲ 就労活動の概要

1. 光和寮

○就労継続支援事業B型

(1) 就業時間

年間就業時間	年間休日	1日の就業時間
1,479 時間	111 日及び誕生日休暇	6 時間

就労時間 8時30分～15時50分
 休憩時間 ①10時00分～10時10分
 ②12時00分～13時00分(昼食)
 ③15時00分～15時10分

(2) 年間売上高の推移 単位(千円)

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
年間売上合計	115,588	68,764	68,773	69,674	66,394

(3) 平均工賃の推移 単位(円)

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
最高工賃	332,223	298,867	247,140	243,293	226,197
最低工賃	12,301	8,930	8,581	6,188	6,200
平均工賃	55,324	50,470	50,537	46,243	44,861

2. 明和寮

○就労継続支援事業B型<ビーサポート>

(1) 就業時間

年間就業時間	年間休日	1日の就業時間
1,598 時間 30 分	112 日	6 時間 30 分

就労時間 8時35分～16時35分
 休憩時間 ①10時05分～10時20分
 ②11時50分～12時50分(昼食)早番
 ②12時20分～13時20分(昼食)遅番
 ③14時50分～15時05分

(2) 年間売上高の推移 単位(千円)

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
年間売上合計	227,282	219,426	191,730	200,061	196,315

(3) 平均工賃の推移 単位(円)

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
最高工賃	244,400	179,424	161,461	139,996	119,418
最低工賃	14,650	14,219	9,968	13,350	18,275
平均工賃	42,121	44,856	37,709	42,393	44,845

3. 港ワークキャンパス

○就労継続支援事業A型<ライトハウス名古屋金属工場>

(1) 就業時間

年間就業時間	年間休日	1日の就業時間
1,524 時間	111 日及び誕生日休暇	6 時間

就労時間 8時20分～15時20分
 休憩時間 ① 10時10分～10時20分
 ② 12時00分～12時50分(昼食) 早番
 ③ 12時30分～13時20分(昼食) 遅番

(2) 年間売上高の推移

単位(千円)

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
年間売上合計	669,705	391,634	242,625	267,406	266,431

(3) 平均工賃の推移

単位(円)

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
最高工賃	299,181	298,864	255,497	239,990	175,602
最低工賃	60,707	55,967	51,717	49,158	66,835
平均工賃	117,371	116,761	102,963	100,515	101,025

○就労継続支援事業B型<KAN 食品開発センター>

(1) 就業時間

年間就業時間	年間休日	1日の就業時間
1,265 時間	112 日	5 時間

就労時間 9時00分～15時00分
 休憩時間 12時30分～13時20分(昼食)
 ※その他、作業の間に適宜休憩

(2) 年間売上高の推移

単位(千円)

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
年間売上合計	55,596	73,757	64,579	61,783	154,546

(3) 平均工賃の推移

単位(円)

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
最高工賃	74,403	107,730	60,187	59,907	71,399
最低工賃	38,160	15,574	23,604	18,997	18,248
平均工賃	35,383	54,881	38,921	39,111	34,908

4. 緑風

○就労継続支援事業B型

(1) 就業時間

年間就業時間	年間休日	1日の就業時間
1,397 時間	111 日	5.5 時間

就労時間	9時10分～16時00分
休憩時間	① 10時40分～10時50分 ② 12時00分～13時00分(昼食) ③ 14時20分～14時40分

(2) 年間売上高の推移

単位(千円)

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
年間売上合計	—	—	—	—	1,710

(3) 平均工賃の推移

単位(円)

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
最高工賃	—	—	—	—	21,094
最低工賃	—	—	—	—	2,640
平均工賃	—	—	—	—	12,234

※工賃は時給にて計算 最高時給 170円 最低時給 30円 平均時給 89円

IV 各事業所の状況

1. 光和寮

○就労継続支援事業 B 型

(1) 治療院

名古屋ライトハウス創設以来の伝統ある職場で、鍼・あんまマッサージ指圧師等の資格を持った方々に働く場を提供している。また、盲学校卒業者に対し、一般社会へ出る前の訓練が出来る仕組みを作りつつある。

営業時間は午前9時半から午後8時半で、現在は11名の方が利用している。

また、仕事時間は早番で午前8時半から午後5時20分、遅番では午前11時から午後8時半となっている。

国家資格のあんまマッサージ指圧師および、はり師が施術にあたっている。

施術については、30分・60分・90分コースなどのほかに鍼コース・フルコース（マッサージと鍼）などがある。

施術用ベッドは12台あり、広々とした治療室になっている。

鍼治療には使い捨て（ディスポ）の鍼を使用しており、安全面においても配慮している。また、受付（電話・窓口）や会計、施術ベッドの整備なども業務のひとつと位置づけているため、利用者の大事な業務のひとつとなっている。

ライトハウス治療院では、接客や治療室のセッティングも就労支援と考えており、治療技術のみではなく、全体的な向上を考えている。

受付は利用者と職員の2名で行い、受付業務がスムーズに行くように配慮している。

利用者の方々が休憩できるように控え室には机と椅子が設置してある。



(2) デザインプリント科

平成22年度よりデザインプリント科と録音速記科を統合し印刷科として一新された。光和寮の印刷事業は昭和40年に活版印刷部門として、録音速記事業は昭和51年に盲人用カナタイプ講習会として創業しそれぞれ長い歴史を持つ。録音速記については、別名テープ起こしと呼ばれ講演・会議・座談などで録音された人の言葉を聴き取り、その内容を文章に直す作業である。現在は時代の流れと共にそれぞれ形を変えて事業を行っており、活版印刷から始まった印刷科はオフセット印刷やオンデマンド印刷に切り替わり、録音速記科はトランスクリバラーを経てデジタルデータをもとに作業を行っている。

近年の印刷業界はデジタル化が進み、パソコンからダイレクトで刷版、印刷することが可能となり、積極的にそれらの機器を整備することで車椅子や麻痺がある障がい者が幅広く作業できる環境が整ってきた。また、製本機を更新し機器的な作業能力の向上を図った。



(3) 録音速記科

テープ起こしは国、県、市の会議、シンポジウム、審査会や、病院、大学などの講演会で収録された音声をワープロ原稿に文字データ化する。ただし単純に文字データにするだけではなく、その原稿が冊子になるのか、それとも裁判などの証拠（書証）になるのかで文章を作り分けている。前者は読みやすく、後者は音声に忠実に、である。

当施設の録音速記の強みは、名古屋市内なら無料で出張録音することである。また、お客様のご要望があれば会場の手配、案内状の発送、アンケートの集計などお客様にとって面倒くさいことや、過去に出版された冊子などドキュメント類のデジタル化。カセットテープのダビングやデジタルメディア化など今日的な仕事も行う。今後、さらに新しい提案をお客様にしていきたいと考えている。

(4) 部品加工科

手作業を中心とした仕事を、障害特性に合わせ提供し、仕事を通して責任感・連帯感・意欲・態度・生活力等を支援している。

前年度から行っている営業活動も少しずつではあるが効果（売上・仕事量）がでてきている為、次年度も引き続き営業活動を行っていく。

現在、54名の方が作業に携わり、多品種・大量品も高品質・納期を守りお客様に信頼される仕事をしております。また、今まで欠点であった機動力もトラックを導入する事により解消し、大型の商品も扱えるようになった。

今後は、より多く仕事提供ができるように機械化を進め、高い工賃に繋がるよう、より多くの企業等と連携をとりながら目指していきたいと考えている。



○就労移行支援事業<名古屋東ジョブトレーニングセンター>

一般就労を目指している障害のある方を対象に一定期間（2年間）、働く為に必要な知識と能力を高めるトレーニングを行っている。また、企業における実習の実施、適性に合った職場探しや就労後も安定して働き続けられるよう支援をしている。

■定 員 18名

■利用期限 最長2年

■利用対象者

- 各種手帳所持者。
- 働く意欲や意思があり、職業訓練を受けることにより就労が見込める方。
- 自力通所が可能で基本的な身の回りの事が出来る方。

■支援内容

- 働く為に必要な力を習得する為のトレーニング
 - ・教材を使って個々の作業能力の向上を図るだけでなく、職場内のマナーやルール、身だしなみ、コミュニケーションスキル（挨拶、返事、報告、質問）などの習得。
- 適性に合った職場探しや就労後の職場定着
 - ・障害特性、能力を把握した上で就職活動を行い、ハローワーク、就職面接への同行。履歴書の書き方、面接練習など。
 - ・就職後も定期的に職場訪問を行い、安定就労、長期就労が出来るよう支援。

■就職者数 13名（23年度）

24年度は6月現在で2名（1名のトライアル雇用を含む）の方が一般就労している。しかし、早く就労させることが目的ではなく、そこで長く定着して働けることが重要になる為、開所して5年目を迎えた今、継続就労の大変さを感じている。

また、様々な障害に対応できるよう、訓練内容を充実させ、現実に即したトレーニングを目指し、一般企業での職場体験実習も積極的に取り入れていく等、今後も各関係機関と連携をとりながら障害のある方の「はたらく」を支えていきたいと考えている。



○生活介護事業

■定 員：20名／1日

■活動時間：10：00～15：00

■利用対象者：次の条件を満たす方

- ・名古屋市在住（原則）
- ・障害福祉サービス受給者証〈生活介護〉の交付を受けている方
- ・障害程度区分3以上（50歳以上の方は区分2以上）

「あたらしく集う場所、輝（ひか）る場所」をモットーにお菓子づくりやレクリエーション等さまざまな場を提供している。

■サービス内容

- 給食 送迎 入浴 創作活動（書道、図画工作、ビーズ細工、陶芸）
- 社会適応訓練（買物訓練、調理訓練、歩行訓練）
- 機能訓練（体操、よさこい体操、マッサージ）
- レクリエーション（麻雀、ゲーム、運動会、クリスマス会等）
- その他健康相談・生活相談など

■今後の展開について

10代～80代の利用者が在籍し、身体機能にも差があるため、フロアのレイアウト変更をし、年齢や障害を問わない受け入れを目指す。

また、対象利用者の拡大につながるよう養護学校の実習生を積極的に受け入れていく。



○施設入所支援

旧法でいう入所施設と就労継続B型との併用として、22名（男性12名、女性10名）の障がい者が入所している。（平成24年3月31日現在）。障がい種別は、視覚障がい者12名、肢体障がい者8名、内部障がい者1名であり、うち障がい重複している者は4名である。入所者に対して、社会生活を営む上で必要となる生活技術の獲得ができるよう、自室の清掃、金銭の自己管理、体調管理などの支援を行っている。



2. ガイドネットあいさぽーと

○居宅介護等・移動支援事業

現状は視覚障害者の方への移動支援と盲学校の学校送迎を中心にサービス提供をしている。昨年10月には同行援護が始まったので、そのニーズに応じていくためにガイド養成講座の開催してヘルパーを確保する。

3. かわな

○福祉ホーム

地域でのごく普通の生活を希望しながらも、家庭環境、住宅等の諸事情により、居宅において生活することが困難な障害者に対し、3年を限度として低額な料金で日常生活に適応するような居室その他の設備を提供し、必要な便宜を図ることを目的としている。

定員 15名	世帯用居室－	1室 (41.16㎡)	
	単身用居室－	13室 (23.98㎡～29.7㎡)	
	1F－	3室 (車椅子使用障害者向け	8室は世帯向け)
	2F－	5室、	3F－ 6室

<利用料一覧>

単位 (円)

区 分	非就労	福祉的就労	一般就労	備 考
利用料 (賃料)	0	7,500	15,000	単身世帯
	0	12,500	25,000	夫婦世帯
共益費 (管理費)	5,000	5,000	5,000	単身世帯
	5,000	5,000	5,000	夫婦世帯
合 計	5,000	12,500	20,000	単身世帯
	5,000	17,500	30,000	夫婦世帯

■ 23年度の利用状況について

地域移行促進のため、長期入居者に対して声掛け等を行った結果、昨年に引き続き、市営住宅当選者1名、一般住宅へ1名が移行。また今年度市営住宅に1名が当選した。



4. やすだ

○福祉ホーム

定員	11名
設備	10室（個室9室、2人部屋1室）
料金	家賃 7,500円
	共益費 5,000円
	光熱水費 10,000円
合計	22,500円



やすだ 居室内

■ 23年度の利用状況について

当施設は、入所施設から地域生活移行に向けての準備段階としての役割を担う事から、今後も個別に地域移行の計画に沿った住宅情報の提供、ヘルパー利用などの支援を行っていく。今年度は入所から2名移行することが出来た。

5. デイサービスセンター クリエイト川名

○地域活動支援センター

■定員：19名／1日

■活動時間：10：00～15：00

■利用対象者：名古屋市在住の視覚障がいのある方

視覚障害者を主体とした地域活動事業として創作活動・社会適応訓練・レクリエーション等のサービス提供を行っている。H 24年3月現在で登録者数44名。

■サービス内容

- 給食 送迎サービス 手芸（編み物、ビーズ細工等） サウンドテーブルテニス
- 陶芸 カラオケ 音声パソコン 外出訓練 調理訓練
- レクリエーション（夏祭り、クリスマス会等）など

■今後の展開について

居心地のよい日常生活が送れるよう、歩行訓練・買い物訓練を定期的に行う。ボランティアを確保し新しい活動の提供ができるように努める。



6. 明和寮

昭和 54 年 11 月

名古屋市初の重度身体障害者授産施設を開所
平成 20 年 1 月

障害者自立支援法に伴い、新事業体系へ移行 就労
継続支援事業（B型）「ビーサポート」・就労移行支
援事業「港ジョブトレーニングセンター」・生活介護
「ぶちとまと」を開設。

平成 20 年 4 月

入所部門の一部が福祉ホーム「あかり」として再編。
黎明荘は通所ホームから福祉ホームとして再編され、
それぞれ事業開始。

《施設外観》



○就労継続支援事業B型<ビーサポート>

《印刷科》

冊子を得意分野として、チラシ、ポスター、
封筒、はがき、名刺など様々な印刷業務を手掛
けている。また、手書き原稿からのデータ作成
はもちろんのこと、さまざまなデザイン作成も
編集部門が請け負っている。

主要取引先としては名古屋市役所、名古屋市
社会福祉協議会、愛知県社会福祉協議会、民間
企業、個人の方々からも受注している。



〔両面印刷機〕

《組立加工科》

主要な作業として熱圧着ブリスター（プラス
チックの容器に商品を入れ台紙に熱圧着する機
械）を使用した作業や当事業所が開発したイン
サートナット圧入機（プラスチック製品に金属
金具を圧入する治具）での加工、またキッチン
用品の部品やビス、取扱説明書などの袋詰め
などを行なっている。

そのほかにも各種組み付けや梱包などの作業
を視覚障害や片麻痺など様々な障がいにあわせ
て展開している。



〔熱圧着ブリスター機〕

《自動車部品科》

20 年以上続いている自動車のエンジン部品の組み付けを中心に、自動車のフロントグリ
ルの部品の取り付け、アセンブリ、グローブボックスの組み付けなど様々な自動車関連の
作業を展開している。

また、自動車部品以外にもガス給湯器の凍結防止ヒーターにバネを取り付ける作業も、
柱となっている。この作業に関しては、内部だけではなく他の作業所にも協力していただき、
生産数を上げて、当事業で一元管理をすることで、付加価値を付けている。

《包装加工科》

障がい者施設ではほとんど見られない真空成型でのプラスチック加工を行っている。

PET・PP・PE・PS・PVCなどさまざまな材料から部品トレーやパッケージ用のブリスターパックを生産している。2面の大プレス機2台（1台は貸与）とスライドブリスター機7台（4台は貸与）により、成型後の抜き作業から曲げ加工まで行うことが可能となっている。



〔エンジンフィルターの組付け〕

《社会貢献科》

平成22年11月より施設全体で取り組んだ『きらっとOneプロジェクト』（企業と明和寮がひとつになる計画）を引き継ぎ、平成23年11月より就労事業として活動を始める。

柱となる業務はブログの配信やホームページの更新等、明和寮のCSR（社会的責任・社会的貢献）活動の情報発信や自動販売機の管理等、ビーサポートの中では異色の内容となっている。



〔真空成型機〕

◇ 23年度の状況

23年度は、震災による製造業の停滞や名古屋市の公費削減の影響もあり、早々に予算の修正を強いられた。自動車業界の土日出勤体制の対応や作業の効率化、他施設との連携強化を行いながら売上を確保してきた。

利用者の高齢化もあり、利用率の低下が進んでいるが、発達障害や知的障害の方の受入れもできる体制作りを進め、活気ある魅力的な就労現場を目指していきたい。



〔ブログの配信〕

○就労移行支援事業<港ジョブトレーニングセンター>

■定員：15名

■時間：9：00～16：00

※水曜日は12：30まで 土曜日は12：30～15：30（月1回程度）

■訓練生受入から就職

①相談受付→②来所していただき現状をお聞きする→③エントリー→④アセスメント（聴き取り、作業評価）→⑤個別支援計画の作成→⑥契約→⑦支援開始→⑧訓練導入期（2～3ヶ月）：環境への適応、特性の把握など→⑨訓練中期：課題の整理、アプローチ、求職活動準備など→⑩訓練後期：具体的求職活動など→⑪採用→⑫定着支援

開設当初、定員12名だった本事業は、皆さんの『働きたい』という強い想いと声に後押しされる形で、21年度より15名へ定員枠を拡大し現在に至っている。

本事業の目的である『就職』。これを目指し、障がい者就職面接会や名古屋市企画の企業見学会・面接会へも積極的に参加、幅広く就労イメージを膨らませ利用者の就労意欲を高めると共に、模擬職場を想定した施設内外における訓練や実習を通じ、就職への可能性を追求している。これらの活動の積み重ねを経て、23年度末までの成果として、一般企業への就職者24名を数えるに至っている。



また、常に訓練内容の充実を図っており、そのひとつとして23年度からはjob caféという接客の実践プログラムをスタート。就職率・定着率へのアップにつなげている。このjob caféは同一敷地内にある他事業利用者や職員との交流の場にもなっている。

その他にも定着支援に力を入れ、卒業生を対象としたOB会も積極的に行っている。（23年度実績11回）こうしたことで、当センターの利用を終えてからも安心して就労できる環境を提供できるよう、引き続き支援を行なっていきたい。



○生活介護事業<ぷちとまと>

在宅の障がいを持つ方に、外出の機会や人との交流、社会参加の機会や趣味、創作等、充実した日中活動ができるよう支援を行っている。それらを通し「楽しい時間」「小さな充実」「自分の居場所」「くつろげる空間」を提供。

23年度末現在23名の方が登録。年齢、障がい程度・種別も様々である。

個人個人ができること、やりたいことに取り組んでいただいている。

《勤務体制》

(1) 職員配置5名 生活支援員3名 看護師2名

(2) 開所時間 10:00～15:00

《日々の活動内容》

■日常生活支援

- ・昼食 個々の食事形態、状況に合わせた形で提供。食事介助の実施。
- ・送迎 港区及び熱田、中川区の一部。
- ・入浴 ボード浴及び個浴にて対応、可能な範囲で相談に応じる。
- ・排泄 介助、おむつ交換等、随時対応。
- ・各種レクリエーションの提供（別記）
- ・その他（バイタルチェック、足浴、体重測定等）



《野鳥観察センター前にて》

《レクリエーション等の活動》

- ・全体での取り組みとして、風船バレー、カラオケ、散歩、買い物、園芸、お菓子作り、創作活動（季節の壁画、飾りつけ作り）などを行っている。
- ・個人、または小グループでの取り組みとして、パソコン、インターネット、カードゲーム、卓上ゲーム、ジグソーパズル、ビーズアート等、本人の希望に合わせて行っている。
- ・季節行事として、花見、七夕祭り、スイカ割り、遠足、クリスマス会等を実施。
- ・レクリエーションへの参加や、過ごし方は基本的に自由。本人の希望や障がい状況、体調に応じ、個人のペースで過ごしていただく。



《ボーリング大会》

○施設入所支援

いわゆる旧法が定める身体障害者授産施設（入所）から、障害者自立支援法が定める日中活動の場と施設入所支援に移行した関係上、当施設の就労継続支援事業B型（ビーサポート）を利用する人が経過的に入所している事業である。経過的な事業のため、制度上の職員配置は宿直のみとなっている。

当初の障害者自立支援法では、平成23年度末には就労継続支援事業B型との利用（併用）ができなかったが改正があり併用が可能となった。しかし、明和寮では利用者の希望と福祉ホーム化する方向で準備を進めていたこともあり、平成24年度4月からは施設入所支援から定員40名の福祉ホームに完全移行することで計画通り進めた。利用者、家族と面談の上、相談、ヘルパーの調整、役所の手続きなどの支援を行なった。

明和寮のすべての事業に関連し、主に生活部分の支援を行う「生活支援」「生活支援・介助（寮父母）」「看護」「給食」の各部門がある。

施設入所支援利用者にのみサービスを提供しているわけではないが、紙面の関係上、施設入所支援として整理し、各部門の業務、状況を以下にまとめる。

（1）生活支援（4名体制、8：20～19：00）

利用者個々の生活相談支援、地域生活移行支援、入退所業務、老人ホーム等他施設への移行支援、利用者と市町村・関連機関・家族等の連絡調整・相談、社会資源などに関する情報提供、受給者証など各種手続きの支援・代行業務、ボランティアの受入・調整などの業務を行っている。

（2）看護（3名体制、7：50～18：00）

利用者の健康維持・管理に関する支援、医療機関との連携や家族との連絡調整、身体的・精神的状況の把握と対応、情報管理等の業務を行っている。また、健康管理の自立に向けての支援にも力を入れている。

（3）生活支援・介助（寮父母）（1名体制、10：40～19：30）

利用者の日常生活支援（食事準備・清掃・ゴミの収集・入浴準備・ふとん干し・シーツ交換・その他依頼事）や相談業務を行っている。

また、障がいの進行や加齢に伴う身体機能の把握、安全に生活できるような環境の配慮にも努めている。

（4）給食

給食は、365日の朝・昼・夕を提供している。食事の種類は、常食の方を主として、糖尿・腎臓・透析食などがある。

特徴として、月に1度のパン・ご飯の選択や主菜の選択を行うなど、家庭に近い手作りで安全・安心な食事の提供に努めている。

7. みなとガイドネット

○居宅介護等・移動支援事業

平成15年4月1日に事業開始して丸9年。通院介助や買い物の付き添いや自宅の家事援助入浴介助などの支援をし、港区在住の障がいのある方の社会参加や自己実現を応援しています。

また、個人的に1泊など泊まりの旅行にも応じています。

サービス提供日は毎日。「安心」「安全」「満足」をモットーにがんばっています。(但し12月30日～1月3日は休業) 時間は8時～18時ですがその他の時間は相談に応じます。



ジャスコにて買い物



あおなみ線乗ります



なばなの里のイルミネーションを見学

8. 黎明荘・あかり

○福祉ホーム

《運営方針》

福祉ホームあかり、黎明荘ともに、身体に障がいを持つ方に対して、自立を目的として3年の期限を設け、低額な料金で居室やその他の施設を提供している。

《入居対象者》

- ・主に当法人で就労している方
- ・基本的に、ADLの自立している方。ヘルパー利用で対応できる方も入居可。

■黎明荘

定員	10名
設備	5戸(2DK、個室10室)
料金	家賃 7,500円
		共益費 5,000円
		<hr/>
		合計 12,500円



黎明荘 居室内

※光熱水費は使用した分を支払う

■あかり

定員	31名
設備	28室(洋室11室、和室17室)
料金	家賃 7,500円
	共益費 5,000円
	光熱水費 10,000円
合計	12,500円



黎明荘 居室内

《平成23年度の状況》

福祉ホームあかりから地域生活に移行される方が2名、他施設に移行される方が2名退居した。利用者の障害の重度化、高齢化が進み、身体介護の需要が増えつつある。また、施設の老朽化が進んでいることもあり、早急に大規模な改修が必要である。



あかり 居室内

9. 港区障害者地域生活支援センター

○指定(委託)相談支援事業<Kiraraぼーと>

平成14年7月より明和寮が名古屋市からの委託を受け、事業を開始した。本年度は相談支援専門員が4名体制(内一人は相談支援機能強化員)で相談支援事業を実施した。

当センターでは、身体・知的に障がいのある方やそのご家族等に福祉制度の情報提供、福祉サービス利用の援助、ピアカウンセリング、サービス利用計画の作成等を行っている。



《施設外観》

住み慣れた地域でより豊かな生活が送れるように総合的な相談支援を行っているが、本年は家族の高齢化に伴い、在宅サービスの新規利用や生活拠点の確保が必要な相談が多く寄せられた。往診医等の助言から相談へつながったケースも増えてきており、今後も地域で暮らす障がい者・児を皆で支えていく仕組み作りを広げていく。

《平成23年度相談実績件数》

訪問相談：878件 外来相談：1953件 協議会等の開催：47回

■訪問相談支援には申請代行、他機関との調整、個別支援会議(年73回)なども含む。
外来相談支援には電話・電子メール等も含む。

相談者数は年間で279名、年間に約3000件の訪問・外来相談を行っている。個別支援会議は年間73件開催している。相談内容は、①支援者との関係がうまく作れず安定した支援を継続することが難しいケース、②金銭管理の問題など権利擁護に繋ぐ支援が必要なケース、③入所・入院から退所・退院へと地域移行に向けた、居住場所探し・在宅生活を支えるためのサービス調整、④介護者が高齢となってきたケース、⑤家族支援

が必要なケースなど、継続的な相談支援や他機関との連携が必要なケースが増えたため、定期的な相談支援に力を入れている。

地域課題の協議、個別のケース検討、ネットワーク作りを目的とした港区障害者地域自立支援協議会（定例会3回、研修会1回）を開催。また、研修部会・就労部会・ケース検討部会と各部会を定期的を開催することで地域課題の抽出を行い協議会への報告を行っている。

また昨年度から「地区別啓発活動」として地域住民を対象とした講演会を開催し、地域住民の障がい理解推進のための活動を3カ年計画で行っている。

他、サービス利用計画作成（3月末 契約者13人）、障がい程度区分認定調査（年間198件）、名古屋市賃貸住宅入居等サポート事業、障害者自立支援配食サービス受付窓口などの業務を行っている。

10. 地域活動支援センター あちえっとほーむ

○地域活動支援事業

開所して4年、3月末で100名超の登録となる。一日平均利用者数は約17名で半日利用など様々な利用ニーズに対応している。

創作的活動の場や交流の場を提供することにより、社会参加の促進と地域住民への障がい理解に努め、地域生活支援を充実させるというこの事業の目的を受け、障がいのある方のデイサービスとしてパソコンや料理クラブ、手芸、音楽療法、太極拳、点字、視覚障がいパソコン、ビーズ、卓球、麻雀など様々な趣向に合わせた講座を実施している。講座以外にぬり絵や折り紙・学習ドリルなどの自由活動も行ってきた。様々な支援活動を通じて社会参加やピア交流の場、やすらぎの場所として、次へのステップをかなえるための力添えを目指している。社会適応訓練の一環として外出訓練を平成12年度は1回実施し、約40名の利用者参加があった年度の終わりに内装工事を実施し活動ルームの居住性・安全性を高めた。

利用者として来所していた人がパソコン講座でスキルを身に付け、ボランティア講師として活躍され、生活リズムを整えて就職に繋がったケースもあった。



11. わくわくキッズ

○児童デイサービス

平成 19 年の開所から 4 年が過ぎ、利用者も 3 月には契約数が 3 4 件、月間利用延べ回数 196 回、1 日平均利用者数は定員 10 名に対して 9.5 名となった。わくわくキッズの方針である、すべての利用者が満足できる活動内容を行うこと、そして職員全員が問題を共有し、前向きに解決する姿勢を念頭に、<ひとりひとりを大切に><成長発達への援助><自分でできることが増えるように>のねらいを基本に取り組んできた。



利用者の障がい別では知的ダブル障がい 14 名、身体 2 名、知的障がい 18 名（自閉 6 名・ダウン 2 名）である。昨年に引き続き親子のバスツアーも盛況であり、今年度は港区のデイサービス 3 事業所で勉強会を行い、多くの参加者が集まった。

12. 海部障害者就業・生活支援センター

○障害者就業・生活支援センター事業（雇用安定等事業）（生活支援等事業）

『障害者の雇用の促進等に関する法律』に基づき、我が法人が国と県から委託を受け、平成 23 年 10 月より開設した。

海部地域と中川・港区を対象圏域とし就業に関わる相談及び支援業務にあたっている。

～．

職職業生活における自立を図るために就業及びこれに伴う日常生活、又は社会生活上の支援を必要とする障がい者に対し、雇用、保健、福祉、教育等の関係機関との連携を図りつつ、身近な地域において必要な指導、助言、その他の支援を行うことにより、その雇用の促進及び職業の安定を図ることを目的としている。

（当該センター事業指定と運営についてより）

～．

■活動（相談・支援）内容

障がい種別を問わず、就労を望む方を対象に、①就職相談、職場での悩みや困っていることの相談、②就職の経験のない方や不安を抱く方に対し、職場実習や関係機関での訓練の紹介、③ハローワーク等における求職活動のサポート、④職場定着支援、⑤会社との手続き、年金、保健等、生活に関する相談、⑥働く生活を支える為の相談、⑦就業者交流会などを実施している。

また、障がい者を雇用している、もしくは雇用を考えている企業の方に対しては、①障がい者の雇用に関する相談、②各種助成金等、制度の活用及び情報の提供などを実施している。

実質的な就業支援以外にも、障がい者雇用について今以上に理解してもらえる様、講演や研修会を通じ啓発活動を行い、また会議等を通じ関係機関との連携強化を図っている。

■平成 23 年度の状況

相談件数は開設以来着々と増え、平成 23 年度末までに登録者数 79 名を数えている。障がい種別としては身体：2、知的：1.5、精神：5、その他：1.5 と、著しく精神障害者からの相談が多い状況にある。

名古屋市内に比べ交通や就労系福祉事業などの資源に乏しい圏域ではあるが、関係者間の連絡を密にし情報の流れを作るとともに、協力して活動することで対象者の支援ネットワークを構築し、さらに就業者の増加及びその定着に力を注いでいく事が当センターの課題であり、使命であると考えている。

13. 港ワークキャンパス

1948年3月

障害者の自立を目指して製缶工場を始める

1983年8月

光和寮より分離独立、現在の港ワークキャンパスに

2008年1月

障害者自立支援法による新事業への移行を行った
授産施設 → 障害者支援施設（入所支援・A型）

2008年4月

就労継続支援多機能型（A型・B型）へ変更
入所部門は、福祉ホームに移行

KAN食品開発センターがB型として

光和寮から港ワークキャンパスの所属へ変更

2010年9月

A型として国産こんにゃく食品加工工場を開設

2011年4月

愛知県セルフセンターからの即売会の運営委託開始

《施設外観》



○愛知県セルフセンターからの運営委託事業（金山駅・即売会）

今年度4月より愛知県セルフセンターから運営委託された即売会（金山コンコース）を開始致しました。障がいをお持ちの方々が心を込めて作った作品、多種多様なオリジナル商品や一般企業からの協賛商品を販売し、期間中は金山総合駅を大いに賑わいました。また、7月より『がんばれ東北』キャンペーンと題して東北地方の施設の商品や岩手県物産品の販売を行い東北地方を応援し続けました。内容は以下の通りです。会場内の目印は「福祉の店OPEN」のぼりです。

① 開催頻度：毎月3日間の開催。※不定期

② 参加施設：毎回30～40施設が参加。

③ 商品：縫製品、木工品、クッキー等の洋菓子、パンやお茶、せんべい、野菜、うどん、ハーブ入り入浴剤、石鹸、雑貨など

④ 売上：100万円以上。

⑤ イベント企画：『母の日プレゼントコーナー』『父の日プレゼントコーナー』『各施設、季節毎に一押しコーナー』等の特設コーナーを創り魅せる会場づくりをしていました。

引き続き行っていますので是非お立ち寄り下さい!!



○就労継続支援A型<ライトハウス名古屋金属工場>

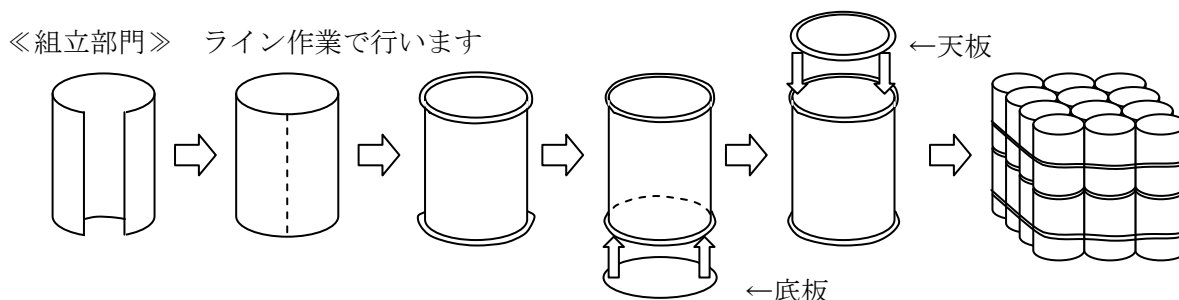
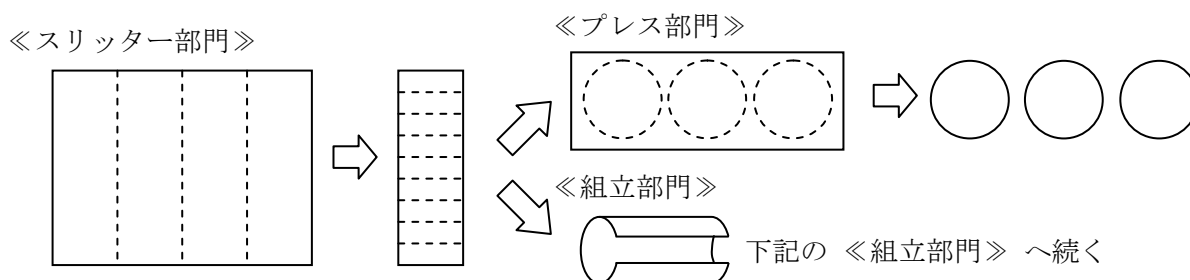


金属加工（主に製缶）事業を行い、雇用契約を結んで働く場として、様々な障害がある方に仕事を提供し従業員一丸となって働いている。

- スリッター部門 材料の切断
- プレス部門 部品を抜く
- 組立部門 缶の生産で構成されている。

缶の形も、丸型、角型、テーパ型など、バリエーションが豊富である。

障害のある方が働きやすいよう製缶工程を細分化し、作業中の移動を少なくしている。



《平成 23 年度の状況》

平成 23 年度は、3 月 11 日に発生した東日本大震災が色濃く影を落としました。

4 月、5 月においては、取引先各社様から復興事業を見込んだ大量の発注をいただいたものの、復興事業の進捗がそれに追いつくはこと無く、結果、流通在庫がダブつくこととなり、6 月以降 9 月までの 4 ヶ月間は製造・出荷ともに大きく前年を割り込みました。10 月からの建築土木施工の最盛期には持ち直し前年を上回ったものの、夏場の落ち込みをカバーするには至らず、今年度は、製造数量前年対比 88%・売上げ前年対比 98%の結果となりました。

片方では缶メーカーとして、工場内の改善を進め、出荷口レイアウト変更や生産ロスの低減に取り組み一定の成果をみた。

○就労継続支援A型<国産こんにゃく食品加工工場>

レトルト食品加工及びこんにゃく加工業務を行っている。

(1) こんにゃく加工業務

- ① 機械でこんにゃくを結ぶ
- ② パック詰め
- ③ ボイル殺菌
- ④ X線異物検査



(2) レトルト食品加工業務

こんにゃくラーメンや、粒こんにゃくの他にも、さまざまな食品の加工を行っている。

- ① 計量
- ② 真空パック
- ③ 商品に合わせた加熱殺菌
- ④ X線異物検査



《平成 23 年度の状況》

平成 23 年度レトルト食品事業は、ほぼ前年度と同じ作業量の確保が出来た。乾燥こんにゃく事業は、生産体制、生産技術ともに確立する事は出来たが、出荷量が見込めず伸び悩んだ。両事業とも採算ベースで考えると厳しい現状である。

来年度以降はさらなる職域の拡大を目指すと同時に、営業活動を強化し事業活性を図っていきたい。

○就労継続支援B型＜KAN食品開発センター＞

パンの缶詰は阪神大震災を機に保存食として生まれた。施設として障害者が地域で自立して暮らしていくことを支えるためには、内職の延長に近い事業だけでは限界があり、新規事業を検討した結果、パンの缶詰に至った。従来の“パン生地を缶に詰めて焼く”製造方法ではなく、“焼いたパンを缶に詰める”製造方法を考案した。

《特 徴》

- ☆ 1缶に2個入りで、焼きたての風味がそのまま
- ☆ 災害時、アウトドア、おやつ、贈答品にも最適
- ☆ ふっくら・やわらかなまま5年間の保存が可能
- ☆ チョコチップ味・レーズン味・コーヒナッツ味の3種類がある

《平成23年度の状況》

平成23年3月に発生した東日本大震災直後から注文状況が一掃し、想像を超える注文が1年以上経過しても続いており、設備投資・製造関係の効率化を進め利用者・職員の相互理解の元、平成24年度も増産体制を継続して堅持しています。

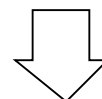
又、震災需要と賞味期限5年が市場規模を大きく変化させ、基盤的に弱かった九州地域にも販路が拡大でき「パンですよ！」も全国に知って頂ける製品になりました。又、原材料の価格高騰をお取引先への見直しで対応し収支的にも大きな黒字を出す事になり、製造当初から念願で有った利用者へ寸志を支給する事が出来ました。

今後はさらに利用者との相互理解を深め作業の効率化を進めることで賞味期限5年への体制作りを確立し更なる利用者の工賃アップを図りたいと考えています。

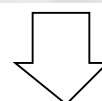
☆☆ 完成 ☆☆



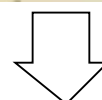
《生地を丸める作業》



《パンが焼きあがる》



《焼いたパンの缶詰め作業》



《ラベル貼り作業》



14. みなと

○福祉ホーム

地域で普通に生活したいと思いながら家庭環境、住宅などの事情によって、地域での生活ができない身体障がいのある方に部屋や設備を提供している。

《対 象》

- ☆ 主に当法人で就労している方
- ☆ 共同生活をおくる上で支障がない方
- ☆ 掃除、洗濯、I A D Lが自立している方

《設 備》

単身用居室 20 室

《料 金》

施設利用者	家 賃	7,500円
	共 益 費	5,000円
	光熱水費	10,000円
	合 計	22,500円

《居室》



《食堂》



《平成 23 年度の状況》

平成 23 年度は港ワークキャンパス利用希望方の利用開始に伴う入居など、新規入居者の獲得は順調であったが、地域移行した入居者はいなかった。

前年度に引き続き地域移行の推進に力を入れ、地域での 1 人暮らしの為の準備の場としての機能を強化していくとともに、新たな住まいの場の必要な方の新規利用を積極的に進める事により福祉ホームとしての役割を果たしていきたい。

15. 緑風

平成 23 年 4 月

昭和 57 年に開設した名古屋市緑風荘が、障害者自立支援法への移行に伴い民営化。当法人が事業を引き継ぎ、就労継続支援事業 B 型「緑風」として事業を開始。



○就労継続支援事業 B 型

＜利用定員＞	20 名	＜職 員＞	6 名
＜作業時間＞	9：10～16：00	＜開所時間＞	8：20～17：10
＜開 所 日＞	年間 254 日（基本的に土日祝は休日）		
＜対 象 者＞	障害者手帳をお持ちの方（身体、知的、精神）		

（1）大規模修繕工事

旧緑風荘からの切り離し工事として、厨房の設置工事、電気・ガス・水道・電話等の引込み工事、外装内装の補修工事をおこなった。平成 24 年 3 月に無事完成。

（2）就労継続支援

「あなたらしい就労の場」「生活スタイルに合ったサービスの提供」をモットーに、『毎日たくさん作業がしたい』『週に 2 日は緑風、2 日はデイケア、1 日はヘルパーさんと掃除』など、多様なニーズに応えられるよう取り組みを進めている。

主な作業内容は“くまでの組立て”“チラシ折り”。一連の作業を手順ごとに分解し、得手不得手や障害特性を考慮して適材適所な作業配置を心がけ、やる気のアップと生産性のアップを目指している。

（3）送迎サービス

利便性の向上を目指して、地下鉄本山駅までの送迎を行っている。

（4）利用者募集

次年度には定員 40 名への増員を目指しているため、活発な広報活動を行っている。

16. 戸田川グリーンヴィレッジ

平成20年に開設準備室を立ち上げ、設計・施工業者との会議や施設見学等を実施し、3年の準備期間を経て平成23年4月入所型の重度障害者支援という新分野の事業を開始した。

準備段階から「あなたらしく」「地域と共に」「全ての人が生き活きと」というコンセプトを掲げ、それに共感できる人材を採用し、全ての人（利用者・職員・ボランティア・地域等）を大切にする個別支援を意識した組織運営を心がけてきた。

《施設正面》



1、勤務体制

- (1) 職員配置
- | | | |
|--|---------------------------------------|------------|
| 総数 | 43名（常勤換算） | |
| 生活支援員 | 27名（常勤換算） | |
| （7時15分～16時05分、8時～16時50分、9時～17時50分、10時30分～19時20分、12時～20時50分、16時30分～9時50分） | | |
| 看護師 | 3名（8時～16時50分、9時～17時50分、10時30分～19時20分） | |
| 事務部 | 3名（9時～17時50分） | |
| 音楽療法士・作業療法士 | 1.5名 | |
| 栄養士 | 1名、調理師 | 4.5名（常勤換算） |
| （6時～14時50分、9時～17時50分、10時30分～19時20分、8時30分～13時、14時～19時30分） | | |
| 喫茶・掃除・洗濯 | 3名（常勤換算） | |
- (2) 昼の開所時間 月～金 9時～17時
夜の開所時間 月～日 17時～9時

2、活動内容

(1) 施設入所支援

居室は全室個室とし、できる限り本人が希望する時間での起床・就寝介助に心がけている。また、個性・プライバシーに配慮したトイレ・入浴設備を備えている。入浴は週3回を保障した。

食事は安全な旬の食材で手作りにこだわり、個別対応や様々な食形態、適温での提供に努めた。家族交流会や夏祭り、バーベキュー等で行事食を提供した。また、ランチバイキングを10月11月に行い、12月2月にはボランティアの協力を得て寄せ鍋とカニ鍋を提供し、好評だった。

館内のS O R A ・ C A F Eは月～金の9時～17時まで営業した。年末には夕食後に居酒屋「空」を開店し、大変好評だった。

1月に成人祝い、3月に還暦祝いを開催した。

1月～3月に満足度調査を実施し、改善できることは次年度の事業計画に反映した。

嘱託医の週1回の往診に加え、5月から整形外科の往診や通院と理学療法士の訪問診療を開始した。7月から希望者への訪問マッサージも開始した。8月には歯科検診を実施、10月から訪問歯科診療を月2回程度開始した。11月にはインフルエンザの予防接種を実施し、利用者・職員の健康管理に努めた。

《施設全体》



(2) 生活介護

生活支援

食事介助、口腔ケア、排泄介助、入浴介助、移乗介助、移動介助、相談・助言、生活環境整備等

主な日中活動

ゴロバレー・ボッチャ・創作活動・お菓子作り・書道・絵画・テーブルゲーム・DVD鑑賞・散歩・季節に合わせた小グループ外出など
ボランティア指導によるパソコン・組みひも教室の開催
作業療法士による個別リハビリと音楽体操
音楽療法士による音楽の時間（個別・グループ）

個別支援計画と介護の班体制

7月からモニタリング会議を開始し、その後、月に2回ずつ定例開催（年間18回）でき、12月には全利用者の週間ケアプランを作成し、個別支援に活用した。

介護の班については男女混合の3班体制から6月に介助技術向上を目指し男女別の4班体制とし日中活動の役割分担を行った。8月から夜勤職員を2名から3名に変更し、業務の見直しをした。8月からは班会議を11月から班長会議を開始した。

(3) 短期入所

ご家族やご本人の都合により、施設での宿泊が必要な場合に利用できる。事前の見学と2カ月前からの予約が必要。

6月から受け入れを開始し、3月には1日平均5.3名の利用率となった。利用者からは「食事がおいしい」「待たされることが少ない」とうれしい感想をいただいている。

《年末居酒屋》



《ゴロバレー大会》



V その他の活動について

1. 東部施設

平成 23 年度

日 時	行 事 名
7月29日	夏祭り
8月18日	昭和区福祉まつり
8月19日	川原神社盆踊り
8月30日	わいわいフェスティバル (広路学区)
9月 9日	親和会日帰り旅行
9月12日	お月見会
10月15日	慰霊祭
10月27日	地域交流フェスティバル
10月28日	昭和区区民まつり
1月 4日	鍋パーティー



地域交流フェスティバル



地域交流フェスティバル



クリスマス会



餅つき

2. 西部施設

○行事

<内部での行事>

月 日	行 事 名
10月15日	名古屋ライトハウス物故者慰霊祭
12月 8日	もちつき
2月 4日	お千代保稲荷
3月10日	ボランティア協力食事会

<外部行事に参加>

月 日	行 事 名
5月 8日	名古屋市障害者スポーツ大会（陸上の部）
8月28日	名古屋市障害者スポーツ大会（水泳の部）
10月23日	港区障害者と区民のふれあい広場
11月20日	名古屋市障害者スポーツ大会（ボーリングの部）
11月27日	名古屋市障害者スポーツ大会（卓球の部）
2月18日	福祉の店



スポーツ大会（陸上の部）



ボランティア協力食事会

○クラブ活動

親和会（親睦と福利を目的として職員・利用者が任意に加入する組織）の中でクラブを作り、自分達のやりたいことを自発的に行っている。

将棋クラブ

書道クラブ

詩吟クラブ

名曲クラブ

切り絵クラブ

スケッチクラブ

陶芸クラブ

手芸クラブ

卓球クラブ

吹き矢クラブ

フラワークラブ

ゴロバレークラブ

3. 緑風

行事やレクリエーションでは、達成感・共感・仲間との連携・身体機能の維持・団体規範・季節感など、生活支援の一環としての側面を大切にしている。

また週に一度、地域貢献活動として歩道の清掃をおこなっている。

行事

4月	7日	(木)	お花見
7月	23日	(土)	緑風見学会
10月	22日	(土)	日帰り旅行(南知多)
12月	12日	(月)	クリスマス会
12月	26日	(月)	もちつき
12月	29日	(木)	納会
1月	6日	(金)	仕事始め
1月	27日	(金)	初詣<上野天満宮>
2月	3日	(金)	豆まき

レクリエーション

施設内レク……ゴロ卓球、ゴロバレー、カラオケ、映画鑑賞、園芸など

施設外レク……明和寮・港ワークキャンプ見学、動物愛護センター、東山動物園など

○歩道清掃

緑風前の歩道は散歩を楽しむ方が多く、バス停もある。

皆さんに気持ち良く過ごしていただくため全員で掃除を行う。

声を掛けて下さる方もあり、ご近所さんとの交流の場にもなっている。



○もちつき

ご家族にもご参加いただき、たいへん盛り上がりました。

皆さんで作った個性的な鏡餅には歓声が上がり、年末の風物詩として記憶に残る行事となった。



4. 戸田川グリーンヴィレッジ

行事実施状況

日 時	行 事 名
5 / 28	利用者・家族 初顔合わせ会
6 / 19	バーベキュー大会
7 / 8	フラダンス鑑賞会
7 / 21	歌謡舞踊鑑賞会
8 / 5	明和寮 納涼祭参加
8 / 7	夏祭り
9 / 1	炊き出し訓練
9 / 27	ゴロバレー練習試合 (あしたの丘)
10 / 5・25	中川コロナ外出 (以降随時実施)
10 / 15	法人慰霊祭
10 / 16	戸田川緑地公園散策 (以降随時実施)
10 / 19	愛知県ゴロバレー大会
11 / 12	光和寮フェスティバル参加
11 / 25	自動車図書館来訪開始
12 / 15	鍋物昼食会 (以降随時実施)
12 / 24	クリスマス会
12 / 27	餅つき
12 / 29	年末居酒屋「空」
1 / 1～4	初詣
1 / 15	港養護学校「成人を祝う会」参加
1 / 22	どまつり「御田咲楽」鑑賞会
2 / 8	福祉の店外出
2 / 16	コメダコーヒー外出 (以降随時実施)
3 / 18	鬼剣舞「かすりの会」鑑賞会
3 / 26	還暦祝い
3 / 28	いちご狩り外出
3 / 29・30・31	花見



夏祭り



もちつき大会



クリスマス会



還暦祝い

Ⅵ ライトハウスの沿革

昭和21年10月	盲人の自立更生と福祉増進をめざして片岡好亀、近藤正秋が中心となり愛知県盲人福祉協会を設立
昭和22年 8月	鍼灸共同治療所および愛盲ホーム光和寮を開設
昭和23年 7月	盲人の新職業開拓を合言葉に、金属作業部（製缶）を設立 点字出版の事業を開始 社団法人愛知県盲人福祉協会となる
9月	聖女ヘレン・ケラー女史来所
昭和27年 5月	社会福祉法人に組織変更し、第一種身体障害者授産施設となる
昭和32年 8月	名古屋ライトハウスと改称
昭和33年 9月	身体障害者福祉法による民間委託授産施設となる
昭和38年12月	あけの星声の図書館事業を開始し併せて点字出版所を新設
昭和41年 4月	あけの星声の図書館、厚生省指定図書館となる
6月	市内八事霊園に施設関係者共同墓碑建立
昭和54年11月	重度身体障害者授産施設「明和寮」開設
昭和55年 4月	既存の身体障害者授産施設を「光和寮」と呼称 同時に、あけの星声の図書館を名古屋ライトハウス図書館と改称
昭和58年 8月	身体障害者授産施設「港ワークキャンパス」光和寮金属作業部より分離独立開所 身体障害者通所施設「黎明荘」を開設
平成 元年 5月	特別養護老人ホーム「瀬古第一マザー園」、養護盲老人ホーム「瀬古第二マザー園」、「瀬古マザー園デイサービスセンター」、ふれあいセンター「瀬古平成会館」開設
平成 3年 5月	図書館を移転「名古屋盲人情報文化センター」と改称
平成 6年 4月	「光和寮」を重度身体障害者授産施設に変更し、入居棟・作業棟新築
平成 7年 4月	身体障害者デイサービスセンター「クリエイト川名」、身体障害者福祉ホーム「かわな」新設
平成 8年10月	創立50周年を記念して新しいシンボルマークを設定
平成12年 4月	介護保険法施行に伴い「瀬古マザー園指定居宅介護支援事業所」開設
平成13年11月	港区に法人本部事務局を開設
平成14年 7月	「港区障害者地域生活支援センター Kira らぼーと」開設 名古屋ライトハウスにおいて、ISO9001（2000版）を認証取得
平成15年 4月	身体障害者居宅介護等事業「みなとガイドネット」開設
8月	高齢者通所介護事業所「矢田マザー園デイサービスセンター」開設
平成16年 6月	身体障害者居宅介護等事業「ガイドネット あいさぽーと」開設
平成18年 3月	光和寮「KAN 食品開発センター」開設 パンの缶詰「パンですよ！」販売開始

平成18年 4月	法人本部事務局を光和寮へ移設
10月	創立60周年を迎え、記念誌の発行や記念式典、記念コンサートを開催 障害者自立支援法に伴い、身体障害者デイサービスセンター「クリエイト川名」が生活介護事業所「デイサービスセンタークリエイト川名」として新事業体系へ移行
平成19年 7月	地域活動支援センター「あちえっとほーむ」、児童デイサービス「わくわくキッズ」を開設
平成20年 1月	障害者自立支援法に伴い、光和寮・明和寮・港ワークキャンパスにおいて新事業体系へ移行 明和寮 就労移行支援事業・就労継続支援事業（B型）・生活介護を開設 光和寮 就労継続支援事業（B型）・就労移行支援事業を開設すると共に生活介護事業所「デイサービスセンタークリエイト川名」を統合 港ワークキャンパス 就労継続支援事業（A型）を開設
4月	明和寮入所部門の一部が福祉ホーム「あかり」として再編、黎明荘は通所ホームから福祉ホームとして再編され、それぞれ事業開始。港ワークキャンパス入所部門が福祉ホーム「みなと」に、KAN食品開発センターが港ワークキャンパス就労継続支援事業B型として再編され事業開始。これに伴い、港ワークキャンパスは障害者支援施設から多機能型事業所となった。
平成21年 4月	光和寮施設入所支援事業の一部を福祉ホーム「やすだ」として再編、光和寮生活介護を分化し、新たに地域活動支援センターを「デイサービスセンタークリエイト川名」の事業所名で開設
平成22年 1月	平成23年4月の開設に向け、名古屋市中川区富永に新たな生活介護事業施設 戸田川グリーンヴィレッジ（仮称）の建設を開始
平成22年 9月	港ワークキャンパス第二工場を改装し、就労継続支援A型の従たる事業所として国産こんにゃく食品加工工場を開設
平成22年12月	名古屋ライトハウスが、名古屋市千種区にある障害者通所授産施設 名古屋市緑風荘の事業譲渡先として決定
平成23年 3月	戸田川グリーンヴィレッジ竣工を迎える ISO9001の認証を返上 独自のマネジメントシステムで進むこととなる
平成23年 4月	障害者支援施設 戸田川グリーンヴィレッジ開所 通所授産施設 緑風荘を名古屋市より譲渡 就労継続支援（B型）事業 緑風として事業開始
平成23年10月	津島市に海部障害者就業・生活支援センターを開設

平成 23 年度

名古屋ライトハウス 東部・西部施設事業概要

発行日

平成 24 年 10 月

発行

社会福祉法人 名古屋ライトハウス

東部・西部施設、緑風、戸田川グリーンヴィレッジ
法人事務局

印刷・製本

名古屋ライトハウス 光和寮 印刷科
